

2026年7月 東京地区百貨店売上高概況

2026年8月25日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,488億円余
2. 前年同月比（増減率）	9.0%（7か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭10.1%（92.8%）：非店頭－3.9%（7.2%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（本年6月対比±0店）（前年同月比：±0店）
5. 総店舗面積	675,671㎡（前年同月比：1.2%）
6. 総従業員数	12,234人（前年同月比：－1.3%）
7. 3か月移動平均値	12-2月 1.4%、1-3月 3.2%、2-4月 5.0%、 3-5月 7.5%、4-6月 7.5%、5-7月 8.0%

〔参考〕2025年7月の売上高増減率は－10.0%

【特徴】

7月の東京地区の売上高は9.0%増と、前月から4.6ポイント伸長し、7か月連続で前年実績を上回った。国内、インバウンド共に時計や宝飾品等の高額品が引き続き好調で、売上全体を牽引した。また、中旬以降の気温上昇を受けて夏物商材の動きが活発化した他、夏休み期間中のファミリー向けイベントや食品催事も集客に寄与した。具体的なアイテムの動向は以下のとおり。

衣料品(9.0%増)：月上旬は夏物衣料の動きが鈍かったものの、中旬以降は気温上昇に伴い、Tシャツ、カットソー、ブラウス、サマーニット等が伸長。接触冷感や速乾素材を使用した機能性商品も好調。子供服はインバウンド需要やクリアランスが寄与し、二桁増。

身のまわり品(11.4%増)：ラグジュアリーブランドのバッグを中心に、国内外共に好調。特にインバウンド売上は円安を背景に高伸長。アクセサリーもブライダル需要に加え、訪日客に人気のブランドが好調に推移。

雑貨(16.9%増)：高級時計や宝飾品が国内、インバウンド共に増勢を維持し、売上を牽引。化粧品は、インバウンド需要の活況が継続している他、国内はUVケア商品やスキンケア関連商品、フレグランス等が好調。

食料品(2.2%増)：国内、インバウンド共に手土産需要の高まりから菓子が好調に推移。中でも果実を使用した涼感のある商品が伸長。花火大会等の夏季イベントや土用の丑の日需要により、弁当や惣菜も堅調に推移。

8月足元動向：前年比8.0%増(8/17時点)で推移。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
 - ①増加した：7店、②変化なし：3店、③減少した：7店
- (3) 7月歳時記（中元、クリアランス、夏休み）の売上（同上／有効回答数11店舗）
 - ①増加した：3店、②変化なし：6店、③減少した：2店

東京地区百貨店 売上高速報 2026年7月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	148,875,104	100.0	9.0
紳士服・洋品	9,131,906	6.1	6.5
婦人服・洋品	23,700,537	15.9	9.9
子供服・洋品	1,803,704	1.2	14.0
その他衣料品	1,678,330	1.1	4.9
衣 料 品	36,314,477	24.4	9.0
身のまわり品	27,190,387	18.3	11.4
化粧品	13,527,663	9.1	10.6
美術・宝飾・貴金属	20,720,720	13.9	24.2
その他雑貨	4,288,094	2.9	6.1
雑 貨	38,536,477	25.9	16.9
家 具	1,345,740	0.9	0.5
家 電	1,351,005	0.9	29.0
その他家庭用品	2,905,841	2.0	-1.4
家 庭 用 品	5,602,586	3.8	5.0
生 鮮 食 品	4,127,506	2.8	-0.7
菓 子	11,518,117	7.7	8.2
惣 菜	7,111,470	4.8	4.0
その他食料品	11,611,072	7.8	-3.2
食 料 品	34,368,165	23.1	2.2
食 堂 喫 茶	2,452,303	1.6	3.2
サ ー ビ ス	1,753,301	1.2	4.7
そ の 他	2,657,408	1.8	-7.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,899,812 千円	-3.4
従 業 員 数	12,234 人	-1.3
店 舗 面 積	675,671 m ²	1.2

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。
その他の品目は、美術・宝飾・貴金属、菓子が12か月連続、化粧品が4か月連続でプラスとなったほか、紳士服・洋品、惣菜が2か月ぶりにプラスとなったが、生鮮食品、その他食料品が2か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	9.0	—	7か月連続プラス
紳士服・洋品	6.5	0.4	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	9.9	1.6	11か月連続プラス
子供服・洋品	14.0	0.2	3か月連続プラス
その他衣料品	4.9	0.1	4か月連続プラス
衣料品	9.0	2.2	7か月連続プラス
身のまわり品	11.4	2.0	5か月連続プラス
化粧品	10.6	0.9	4か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	24.2	3.0	12か月連続プラス*
その他雑貨	6.1	0.2	11か月連続プラス*
雑貨	16.9	4.1	11か月連続プラス
家具	0.5	0.0	3か月連続プラス
家電	29.0	0.2	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-1.4	-0.0	3か月連続マイナス
家庭用品	5.0	0.2	2か月ぶりプラス
生鮮食品	-0.7	-0.0	2か月連続マイナス*
菓子	8.2	0.6	12か月連続プラス*
惣菜	4.0	0.2	2か月ぶりプラス*
その他食料品	-3.2	-0.3	2か月連続マイナス*
食料品	2.2	0.5	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	3.2	0.1	2か月ぶりプラス
サービス	4.7	0.1	2か月ぶりプラス
その他	-7.2	-0.2	4か月連続マイナス
商品券	-3.4	-0.0	29か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>